

政 務 活 動 費 出 金 票



出 金 日	令和 6 年 8 月 26 日
項 目	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	支払先及び購入品名、購入数、購入者などを記入 令和 6 年度年会費 日中友好議員連盟・日韓友好議員連盟・日台友好議員連盟・下新川海岸整備事業促進議員連盟 石崎一成・久保田満宏各々の詳細は裏面参照 (久保田満宏立替)
金 額	金 19,000 円
支 出 内 訳	内訳) 裏面の通り 2024. 8. -6 支払済
領 収 書	
感熱紙の領収証 はコピーしてか ら貼付	

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

自由民主党議員会「響」

氏 名 自由民主党議員会「響」



承認印	
会 長	経理責任者





領 収 書

金 3,000円

但し、令和6年8月26日

令和6年度日中友好富山県地方議員連盟会費として

上記のとおり領収いたしました。

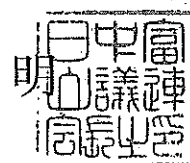
令和6年9月13日

魚津市議会議員

久保田 満 宏 様

日中友好富山県地方議員連盟

会 長 宮 本 光





領 収 書

金 3,000円

但し、令和6年8月26日

令和6年度日中友好富山県地方議員連盟会費として

上記のとおり領収いたしました。

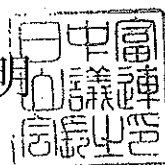
令和6年9月13日

魚津市議会議員

石 崎 一 成 様

日中友好富山県地方議員連盟

会 長 宮 本 光 明





領 収 書

¥ 2, 0 0 0 -

ただし、令和 6 年度富山県日韓友好議員連盟会費
として

令和 6 年 8 月 2 6 日
(魚津市議会議員)

久保田 満宏 殿

富山県日韓友好議員連盟会長

領 収 書

¥ 2, 0 0 0 -

ただし、令和 6 年度富山県日韓友好議員連盟会費
として

令和 6 年 8 月 2 6 日
(魚津市議会議員)

石崎 一成 殿

富山県日韓友好議員連盟会長



領 収 書

¥ 2, 0 0 0 —

ただし、令和 6 年度富山県日台友好議員連盟会費
として

令和 6 年 8 月 26 日

魚津市議会議員 久保田 満宏 殿

富山県日台友好議員連盟

会長 中 川 忠 昭



領 収 書

¥ 2, 0 0 0 —

ただし、令和 6 年度富山県日台友好議員連盟会費
として

令和 6 年 8 月 26 日

魚津市議会議員 石崎 一成 殿

富山県日台友好議員連盟

会長 中 川 忠 昭





領 収 書

金5,000円

但し、令和6年度下新川海岸整備事業促進議員連盟会費として

上記金額を領収いたしました。

令和6年8月26日

魚津市議会議員 久保田 満 宏 様

下新川海岸整備事業促進議員連盟

会長 川 上 浩



政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	令和 6 年 10 月 15 日
項 目	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	支払先及び購入品名、購入数、購入者などを記入 (久保田満宏立替) 北朝鮮に拉致された日本人を早期に救出する富山県地方議員連盟 令和6年度会費 2,000円×2名=4,000円
金 額	金 4 , 0 0 0 円
支 出 内 訳	内訳) 裏面の通り
領 収 書	
感熱紙の領収証 はコピーしてか ら貼付	

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

自由民主党議員会「響」

氏 名 自由民主党議員会「響」



承認印	
会 長	経理責任者



領 収 書

¥ 2, 0 0 0 -

ただし、令和 6 年度北朝鮮に拉致された日本人を早期
に救出する富山県地方議員連盟会費として

令和 6 年 1 0 月 1 5 日

石崎 一成 殿

北朝鮮に拉致された日本人を早期に
救出する富山県地方議員連盟
会長 鹿熊 正



領 収 書

¥ 2, 0 0 0 -

ただし、令和 6 年度北朝鮮に拉致された日本人を早期
に救出する富山県地方議員連盟会費として

令和 6 年 1 0 月 1 5 日

久保田 満宏 殿

北朝鮮に拉致された日本人を早期に
救出する富山県地方議員連盟
会長 鹿熊 正





政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	令和 6 年 10 月 2 日
項 目	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	支払先及び購入品名、購入数、購入者などを記入 (久保田満宏立替) 遼寧ファン倶楽部 令和6年度年会費 2,000 円 振込手数料 440 円
金 額	金 2 , 4 4 0 円
支 出 内 訳	内訳) 裏面の通り
領 収 書	
感熱紙の領収証 はコピーしてか ら貼付	

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

自由民主党議員会「響」

氏 名 久保田 満 宏



承 認 印	
会 長	経理責任者





政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	令和 6 年 10 月 3 日
項 目	①調査研究費 ②研修費 ✓ ③広報費 ④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	支払先及び購入品名、購入数、購入者などを記入 遼寧ファン倶楽部 令和6年度年会費 2,000 円 振込手数料 440 円 石崎一成
金 額	金 2, 4 4 0 円
支 出 内 訳	内訳) 裏面の通り
領 収 書	
感熱紙の領収証 はコピーしてから貼付	

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

自由民主党議員会「響」

氏 名 石 崎 一 成



承 認 印	
会 長	経理責任者

会 員 各 位

遼寧ファン倶楽部

代表世話人 宮本 光明

遼寧ファン倶楽部第3回総会及び 交流懇親会の開催について

(ご案内)

盛夏の候 ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

この度、下記日程によりまして「遼寧ファン倶楽部第3回総会及び交流懇親会」を開催することにいたしました。会員各位には大変お忙しいことと存じますが万障繰り合わせのうえ、ご出席を賜りますようご案内申し上げます。

本年は、富山県と遼寧省が友好県省締結40周年、また、遼寧省にある富山ファン倶楽部においても設立20周年という記念すべき年に当たります。
当倶楽部といたしましても、県とともに遼寧省及び富山ファン倶楽部との相互交流を活発化させたいと考えております。

つきましては、総会等の出欠のご回答を同封いたしました「はがき」にて、7月31日(水)までに事務局に届きますようにご投函をお願いいたします。

記

1 総会の開催について

(1) 開催日時 令和6年8月21日(水)

15:30~16:30 受 付

(受付にて令和6年度会費2,000円を承ります。)

16:30~17:15 総 会

(総会後、富山ファン倶楽部世話人(大連富麗華国際旅行社社長)
金春日氏の講話を予定)

(2) 開催場所 富山県民会館 3階 304号

(3) 総会に諮る予定の主な議案

①令和4・5年度事業報告及び決算報告

②令和6・7年度の役員案について

③令和6年度事業計画案及び予算案

④「遼寧ファン倶楽部親善交流の旅」の実施と参加者募集について

2 交流懇親会の開催について

(1) 開催場所 富山県民会館 8階 バンケットホール

(2) 交流懇親会の時間(予定) 17:30~19:30

(3) 会 費 10,000円(当日、総会受付の際に承ります。)

【連絡・問合わせ先】

遼寧ファン倶楽部事務局

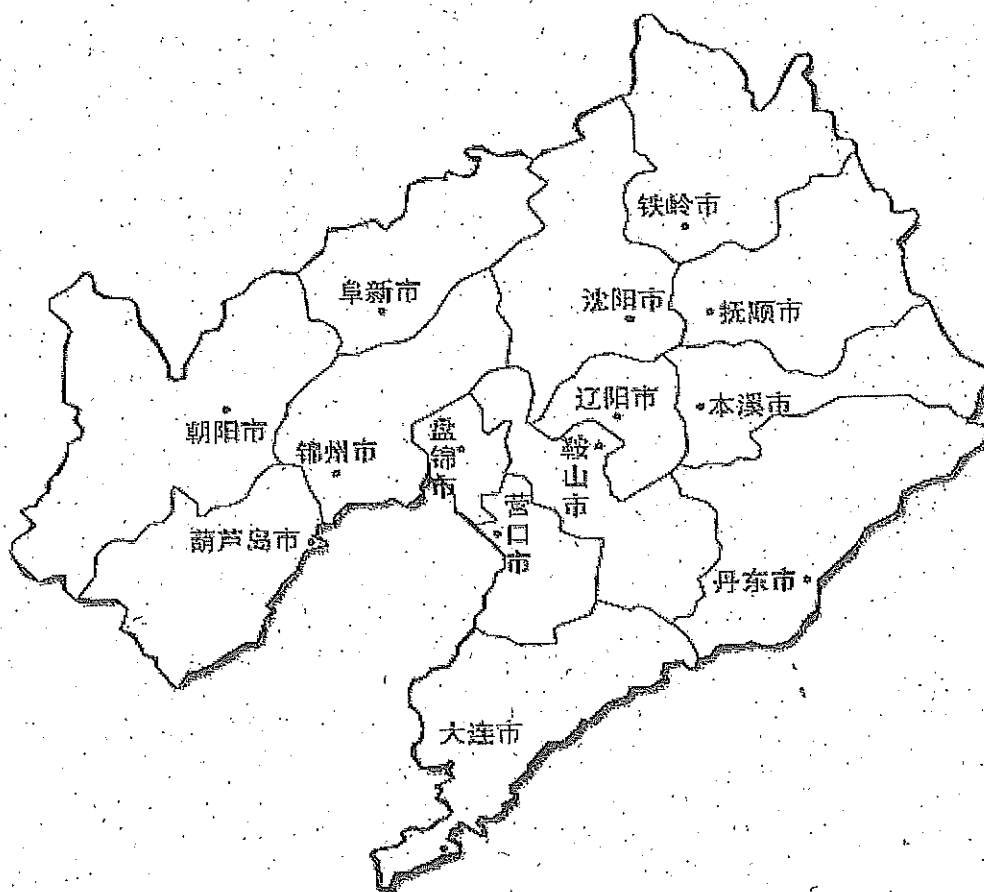
担当: 谷井 進

(携帯) 090-8968-1485

令和6年度 遼寧ファン倶楽部第3回総会

1 日 時 令和6年8月21日(水) 16:30~

2 場 所 富山県民会館 304号室



遼寧ファン倶楽部

令和7年2月吉日

遼寧ファン倶楽部
会 員 各 位

遼寧ファン倶楽部
代表世話人 宮本 光明

「遼寧省とやまファン倶楽部」との交流と
観光地めぐりの旅について

立春の候 会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃から遼寧ファン倶楽部の活動に対しまして特段のご理解とご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、このたび遼寧ファン倶楽部主催の標記の旅を計画いたしました。

ご承知の通り富山・大連便運航の再開に加え、昨年11月30日から中国渡航の際のビザ免除措置が再開されるなど訪中の環境が整ったことから実施を予定いたしました。

つきましては、応募の定員15名枠内を設定して参加者を募ります。同封いたしました行程をご覧ください、積極的な応募をお待ちしております。

なお、応募期限は2月28日（金）までとしますが、その前に応募定員になりましたら締め切らせていただきますことを申し添えます。

【連絡・問い合わせ先】

遼寧ファン倶楽部事務局

(ニュージャパン・トラベル内)

担当：古澤 正樹

担当：杉政 伸一

(TEL)076-441-2000



政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	令和 6 年 11 月 21 日
項 目	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	支払先及び購入品名、購入数、購入者などを記入 11月16日・17日 東日本大震災の実相を伝える福島県代表菅野好光氏主催研修会 福島県双葉郡浪江町一円視察研修（会派視察）
金 額	金 1 1 4 , 7 4 0 円
支出内訳	内訳)
領 収 書	
感熱紙の領収証 はコピーしてか ら貼付	

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

自由民主党議員会「響」

氏 名 自由民主党議員会「響」



承 認 印	
会 長	経理責任者

①調査研究費

②研修費

⑤要請・陳情活動費

⑥会議費

政務活動費旅費計算書

会派名 自由民主党議員会「響」

金額 114,740円

(1人あたり 57,370円)

用 務	東日本大震災の実相を伝える福島県代表菅野好光氏主催の研修会					
旅 行 先	福島県双葉郡浪江町					
旅 行 期 間	令和6年11月16日(土)～令和6年11月17日(日) (1泊2日) 2名					
種 別	【自】区 間【至】	乗車料金	急行料金	特別車料金	合 計	
鉄 道 賃	黒部宇奈月温泉	大宮⇄仙台⇄浪江	円	円	円	81,640円
			円	円	円	円
			円	円	円	円
			円	円	手数料2名 円	1,100円
					合 計⇒	82,740円
航 空 賃			円	円	円	円
			円	円	円	円
車 賃	【自】区 間【至】	借上料金	燃料費	高速料金	合 計	
		円	円	円	円	
宿 泊 料	宿泊費(いこいの村なみえ)＋施設見学費＝16,000円/名					32,000円
そ の 他 (駐車料金等)						円
備 考						円
合 計						114,740円

旅行議員氏名

石 崎 一 成

久保田 満 宏

承認印	
会 長	経理責任者
	

2024年10月28日

旅行費用(請求書)

自由民主党議員会「響」 久保田満宏 石崎一成	様	人数	2 名
---------------------------	---	----	-----

日 程	2024/11/16 ~ 11/17	泊 日
内 容	浪江	

今回御請求金額

¥82,740-

(内10%消費税)

(7,521)

担当者:木下

登錄番号:T2230001007250

ご利用誠に有難うございました。ご利用いただいた費用は下記のとおりでございます。

種 別	日程等	内 容	人数等	単価	金 額
JR	11/16-11/17	黒部宇奈月温泉⇄浪江 往復	2	40,820	81,640
企画料		全旅協企画旅行補償制度利用企画料金を含みます			
国内取扱手数料			2	550	1,100
海外取扱手数料					
企画手配料					
※表示金額は消費税込みの金額です。					82,740
① 課税取引計(10%対象) (内消費税額10%)					(7,521)

※表示金額は消費税込みの金額です。

① 課税取引計(10%対象)

(内消費税額10%)

(7.521)

領 收 書
R E C E I P T

TRAVEL PLANNING SYSTEM CO.,LTD.

令和 6 年 10 月 29 日

自由民主党議員會「郷」樣

~~¥~~ 82,740-

上記の金額、正に領収いたしました。

但し

として



圖金行旅

代表取締役社長

宮山隈角津市釈迦堂1丁目16-12(〒937-0067)

魚津駅前ビル1F

TEL (0765) 24-3900 FAX (0765) 24-5040

領收 № 15993

現金	✓
小切手	
振込	



次回も是非、当社に御用命下さいますようお願い申し上げます。
この度のお支払いまことにありがとうございます。

集金者印	発行者印
	

名宛人及び金額を訂正したものは無効です。

【取引銀行】 ※お振り込み手数料は、貴社にてご負担くださいますようお願い致します。

◎にいかわ信用金庫 本店(普)0199117

◎北陸銀行 魚津駅前支店(普)2501620

◎富山第一銀行 魚津支店(普)0066598

◎富山銀行 魚津支店 (普)0361276



領 収 証

令和6年11月16日

富山県魚津市議会
自由民主党議員会「響」様

金 32,000 円

但 「原発事故から13年！現在の浪江町」参加費2名分
上記正に領収いたしました

東日本大震災の実相を伝える会

福島県代表 菅 野 好 光 

〒964-0111 福島県二本松市太田字館小田3



令和6年9月23日

富山県魚津市議会自由民主党議員会「響」
会 長 久保田 満 宏 様

東日本大震災の実相を伝える会
福島県代表 菅 野 好 光

「原発事故から13年！ 現在の浪江町」

朝夕は秋を感じる頃となりました。皆様にはお元気で活躍されていることと存じます。
連絡が遅れましたが、恒例の「東日本大震災の実相を伝える集い」を下記の日程にて開催いたしますので、ご参加を宜しく願いいたします。昨年、魚津において福島県浪江町に開催場所を決定しました。

3.11 東日本大震災、原発事故から13年経過した浪江町、周辺の現状を五感で体験して頂きたいと思います。
コーディネーターに地元浪江町の元福島県連合青年会副会長の志賀さんをお迎えし、当時の話や、現状、今後の課題等浪江（日本）の今を学びたいと思います。

尚、先に案内しておりましたIFの施設や中間貯蔵施設の特別見学は、申し込みましたが既に予約超過とのことで断念いたしましたことを申し訳なく存じます。

記

開催日 令和6年11月16日（土）～17日（日）
集 合 令和6年11月16日（土） 12時30分 道の駅 なみえ
参加費 16,000円/1名（宿泊費・見学費込み）
宿 泊 いこいの村 なみえ 〒979-1525 福島県双葉郡浪江町大字高瀬字丈六10
TEL (0240) 34-6161 <https://www.ikoi-namie.com/>

行 程 1日目 令和6年11月16日（土）
13:00 東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）
13:15～13:55 語り部
14:30 東京電力廃炉資料館（富岡町）
15:30～16:00 団体コース
16:30
17:00 いこいの村 なみえ チェックイン（宿泊所：浪江町）
18:30 夕食 浪江町内
20:30 いこいの村 なみえ 着

2日目 令和6年11月17日（日）
09:00 いこいの村 なみえ 出発
福島国際研究教育機構 F-REI【エフレイ】施設（浪江町）
09:30 請戸小学校震災遺構見学
10:30 水素ステーション ロボテス
11:30 道の駅 なみえ（昼食後解散）

※ 行程については、やむなく変更する場合がございます。
後泊を希望される方は、お申し出下さい。18日（月）オブショナルツアーで福島県観光案内いたします。



令和6年9月23日

富山県魚津市議会

副議長 石 崎 一 成 様

東日本大震災の実相を伝える会
福島県代表 菅 野 好 光

「原発事故から13年！ 現在の浪江町」

朝夕は秋を感じる頃となりました。皆様にはお元気で活躍されていることと存じます。

連絡が遅れましたが、恒例の「東日本大震災の実相を伝える集い」を下記の日程にて開催いたしますので、ご参加を宜しく願います。昨年、魚津において福島県浪江町に開催場所を決定しました。

3.11 東日本大震災、原発事故から13年経過した浪江町、周辺の現状を五感で体験して頂きたいと思います。

コーディネーターに地元浪江町の元福島県連合青年会副会長の志賀さんをお迎えし、当時の話や、現状、今後の課題等浪江（日本）の今を学びたいと思います。

尚、先に案内しておりましたIFの施設や中間貯蔵施設の特別見学は、申し込みましたが既に予約超過とのことで断念いたしましたことを申し訳なく存じます。

記

開催日 令和6年11月16日（土）～17日（日）

集 合 令和6年11月16日（土） 12時30分 道の駅 なみえ

参加費 16,000円/1名（宿泊費・見学費込み）

宿 泊 いこいの村 なみえ 〒979-1525 福島県双葉郡浪江町大字高瀬字丈六 10

TEL (0240) 34-6161 <https://www.ikoi-namie.com/>

行 程 1日目 令和6年11月16日（土）

13:00 東日本大震災・原子力災害伝承館（双葉町）

13:15～13:55 語り部

14:30 東京電力廃炉資料館（富岡町）

15:30～16:00 団体コース

16:30

17:00 いこいの村 なみえ チェックイン（宿泊所：浪江町）

18:30 夕食 浪江町内

20:30 いこいの村 なみえ 着

2日目 令和6年11月17日（日）

09:00 いこいの村 なみえ 出発

福島国際研究教育機構 F-REI【エフレイ】施設（浪江町）

09:30 請戸小学校震災遺構見学

10:30 水素ステーション ロボテス

11:30 道の駅 なみえ （昼食後解散）

※ 行程については、やむなく変更する場合がございます。

後泊を希望される方は、お申し出下さい。18日（月）オプションルツアーで福島県観光案内いたします。



自由民主党議員会「響」会派視察 考察 **久保田満宏**

開催日 令和6年11月16日(土)17日(日) ※行程表は別紙

主催者 東日本大震災の実相を伝える会 福島県代表 菅野 好光「原発事故から13年！^{いま}現在の浪江町^{なみえまち}」

案内人 志賀 重夫(日本環境調査研究所福島営業所長) 吉田 恵三(会津若松市議会議員)

参加者 石崎 一成(魚津市議会) 久保田 満宏(魚津市議会) 新川 豊実(京都市右京区)

中谷 和彦(岐阜県飛騨市) 齋藤 千春(群馬県前橋市) 齋藤 緑(宮城県亘理郡山元町)

松浦 利明(岩手県岩手郡葛巻町) 佛木 完(埼玉県) 渋谷 隆(東京都)

目的 東日本大震災、原子力発電所事故から13年が経過した福島県双葉郡浪江町の現在の状況と、原子力災害の実相に学ぶ

【令和6年11月16日(土)】

①東日本大震災・原子力災害伝承館(公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構)

〒979-1401 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田 39

TEL 0240-23-4402

2011年3月11日に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う原子力災害は、未曾有の複合災害を経験し、復興への途を歩んできた福島の記録と記憶を防災・減災の教訓として未来へつないでゆくために建設されている。残念ながら時間の関係で語り部講話を受講できなかったものの、案内係りの丁寧な説明を受けながら施設内を回った。

シアターでは、地震・津波・原子力発電所事故当時の映像とアニメーションを効果的に組み合わせられた動画を大型スクリーンで見た。テーマは「災害の自分事化」「福島の経験と教訓の未来への継承」となっており、災害・事故・復興・未来について考える映像でありました。ナレーションは福島県郡山市出身で先月亡くなった俳優の西田敏行さんが担っておられました。

・当時の県民の思い。・原子力発電所が事故直後にどのような対応をしたのか。・長期化する原子力災害の対応や復興への挑戦など様々な思いをめぐらせる施設でありました。

国内外の人が、一度は訪問すべき貴重な施設であると感じました。そしてこのような施設があることが不幸だとも思い、複雑な気持ちになった。本市の職員や議員・児童生徒にも是非近いうちに訪問して欲しい。

「二度と起こってはならない・起こしてはならない」。防災・減災の考えを再認識し伝承館をあとにした。

②東京電力廃炉資料館(東京電力ホールディングス株式会社)

〒979-1112 福島県双葉郡富岡町中央三丁目58番地

TEL 0120-502-957

原子力事故の記憶・記録を後世に残し、二度と事故を起こさないための反省と教訓を社内外に伝承するため、旧エネルギー館に、この「東京電力廃炉資料館」は建設されていた。

真実を伝えていくことが、東京電力が果たすべき責任の一つであり、長期にわたる膨大な廃炉事業の全容を明らかにし、進捗を理解しやすく発信していくことが、国内外の英知の結集と努力を継続させていく上で重要であるとの考えからである。

三つのゾーンと情報スペースからなっている。

プロローグ⇒記憶と記録・反省と教訓⇒廃炉現場の姿⇒情報スペースと続いていく構成である。

とりわけ、ゾーン3 廃炉現場の姿では、何時までかかるのかわからない地道な作業の中、汚染水・処理水対策や、燃料取り出し・燃料デブリ取り出しの建屋内の作業状況を映像で紹介されたことが印象に残った。

他にも、事故当時の、報道されていなかった映像や、詳細も含まれており、よく理解できる内容となっている。映像からは、事故当時の中央作業室の様子や対応の仕方や所員の生の声が映し出されており、大変刺激的なものであった。県内には原子力発電所はないとはうものの、石川県志賀原子力発電所に事故があった場合は30キロ圏内に氷見市には避難することになることを考えれば他人事では済まされない。

国内外の1人でも多くの人に、この東京電力廃炉資料館を訪問していただき、未曾有の被害を起こす複合災害の実情を見て・知って・考える一助になればよいと考える。

全国の教育機関と社会に、もっと情報発信をすべきであり、当市の職員や他の議員や児童・生徒にも是非訪問していただきたいと強く思っている。



【令和6年11月17日(日)】

③震災遺構 浪江町立請戸小学校

〒939-1522 福島県双葉郡浪江町請戸字持平 56 (問合わせ: 浪江町教育委員会事務局強度文化係)

Tel 0240-23-5601

※一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構の 66/67 番目の震災遺構)

2011年3月11日、14:46 東日本大震災発生し震度6強が浪江町を襲った。沿岸部では15.5メートルの津波があらゆる物を破壊し曳きさらっていった。

請戸小学校の児童と教職員は、的確な判断と速やかな行動により難を逃れた。その後の原子力発電所爆発により、浪江町民は町外避難となった。

震災前は、21,000人が暮らしていた浪江。戻ってきた人たち含め、現在住んでいるのは2,000人。

震災後に建てられて一番賑わっているのは、「道の駅なみえ」だけだという。

悲しい、虚しいが沢山だった。

今の請戸地区は、漁港が復旧し魚が水揚げされている。

請戸地区・請戸小学校は津波により甚大な被害を受けたが、「過去に学び未来につなげる。」「震災遺構請戸小学校」として残すことにされた。

この震災遺構請戸小学校を訪問できたことは、実に意義深い。過去に何度か宮城県亶理郡山元町の、震災遺構中浜小学校を訪問したことがあるが、外観を見ると津波で傷つきえぐられた痕跡が、非常に類似していることに驚かされ、また津波がもたらす悲惨さを再認識させた。

東日本大震災により、太平洋沿岸500キロメートルにも及ぶ広範囲が甚大な被害を受け、その惨状を被災地では実情や教訓を伝えるための施設が多く整備されている。

一般社団法人 3.11 伝承ロード推進機構 (2019年8月設立) によると、2024年4月時点で67施設に及んでいる。

人命の尊さと、防災・減災そして避難時の迅速な判断力の重要性を知り、日常の不注意と無関心への警鐘を鳴らしている施設といえる。

阪神・淡路。中越。熊本。東胆振。能登半島等々クラスの大震災は国内外で頻発しており、甚大な被害をもたらしている。あらためて震災遺構を訪問し、日常の備えや被災時の行動の仕方を学ぶために年に一度は訪問したいと考える。

学習施設としての重要性和、日々生活する中で、避難訓練だけではなく、日本が被った自然災害がもたらす影響を感じ、実践するための気づきの場として、皆さんに訪れて頂き、肌で感じていただきたい。

④その他

・福島国際研究教育機構 F-REI (エフレイ) 施設 建設用地見学

・福島ロボットテストフィールド浪江滑走路

設置者: 福島県

指定管理者: 公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構

福島県南相馬市原町区萱浜字慎赤沼 83 番

Tel. 0244-25-2473

・水素ステーション 外観見学

世界一の水素製造研究施設というが、中に入れないため外観を見ながら案内人の説明を聞いた。

費用対効果では、採算が取れてないことや、研究施設のため水素を民間が供給してはもらえないため何のメリットもない施設だとのことだった。

(考 察)

【令和6年11月16日(土)】

①東日本大震災・原子力災害伝承館(公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構)

〒979-1401 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田 39

Tel 0240-23-4402

2011年3月11日に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う原子力災害は、未曾有の複合災害を経験し、復興への途を歩んできた福島の記録と記憶を防災・減災の教訓として未来へつないでゆくために建設されている。

時間の関係で語り部講話を受講できなかったのは残念に感じている。

案内係の説明を受け施設内を回り、シアターでは、地震・津波・原子力発電所事故当時の映像とアニメを組み合わせた動画を大型スクリーンで観ることができた。

テーマは「災害の自分事化」「福島の経験と教訓の未来への継承」。

災害・事故・復興・未来について深く考えさせられる映像であった。

ナレーションは福島県郡山市出身で最近に亡くなった、俳優の西田敏行さん担当しておられました。

当時の県民の思いや原子力発電所が事故直後に、どのような対応をしたか。

長期化する原子力災害の対応や復興への挑戦など、様々な思いをはせた施設でした。

決して風化させることなく、永く語り部とともに残していかなければならない施設であると思いました。

1人でも多くの、国内外の人に訪問してもらい、共通認識として、防災・減災を日常的に考える、契機となれば幸いです。

②東京電力廃炉資料館(東京電力ホールディングス株式会社)

〒979-1112 福島県双葉郡富岡町中央三丁目 58 番地

Tel 0120-502-957

原子力事故の記憶と記録を後世に残し、二度と事故を起こさないための反省と教訓を社内外に伝承するため、旧エネルギー館に「東京電力廃炉資料館」は建設された。

真実を伝え続けることが、東京電力が果たすべき責任の一つでもあり、長期にわたる膨大な廃炉事業の全容を詳らかにし、進捗度合いを理解しやすく発信することが、国内外の英知の結集と努力を継続させていく上で重要であるとの考えからである。

3つのゾーンと情報スペースから構成されている。

・プロローグ・記憶と記録・反省と教訓・廃炉現場の姿・情報スペースと続いていく構成となっている。

特に、ゾーン3の廃炉現場の姿は、いつまでかかるか予測も出来ない地道な作業をする中で、汚染水や処理水対策、燃料取り出し、燃料デブリ取り出しの建屋内の作業状況を映像で紹介されており、大きく印象に残った。

他にも、事故当時の報道されていなかった映像や詳細も含まれており、理解と認識が高まった。

事故当時の中央作業室の様子や対応の仕方、所員の生の声が映し出され、想像を絶し刺激的だった。

県内には原子力発電所はないが、志賀原発に事故があれば30Km圏内にあり、氷見市は避難区域となることから、他人事ではなく自分事として考えなくてはならない。

多くの人が、この東京電力廃炉資料館を訪れ、未曾有の被害を起こす複合災害の実情に触れ、自ら考える一助になればよいと考える。

国や政府は、さらに情報発信を実施していただきたい。

当市の職員や他の議員や児童・生徒にも是非訪問していただきたい施設であると感じました。

【令和6年11月17日(日)】

③震災遺構 浪江町立請戸小学校

〒939-1522 福島県双葉郡浪江町請戸字持平 56 (問合わせ: 浪江町教育委員会事務局強度文化係)

Tel 0240-23-5601

※一般財団法人3.11 伝承ロード推進機構の66/67 番目の震災遺構)

2011年3月11日、14:46 東日本大震災発生し震度6強が浪江町を襲った。

沿岸部では15.5mの津波が人や物を飲み込み曳きさらっていった。

児童と教職員は、的確な判断と速やかな行動により難を逃れたものの、その後の原子力発電所の爆発により浪江町民は町外避難となった。

震災前、約21,000人が暮らしていた浪江。今は、戻ってきた人達含めて約2,000人。

震災後に建てられて賑わっているのは「道の駅なみえ」だけだとのことだ。

浪江には、悲しい虚しいが沢山だった。復興基金や交付金で建設されるも、人がいない広大な敷地や利用されていないと目される建物。請戸地区は、漁港が復旧し魚が水揚げもされている。

請戸地区・請戸小学校は津波により甚大な被害を受けたものの、「過去に学び未来につなげる」 「震災遺構請戸小学校」として残されており、当時の津波が残した壮絶な爪あとをしっかりと残している。この震災遺構請戸小学校を訪問できたことは実に意義深い。

過去に何度か隣県である宮城県亶理郡山元町の、震災遺構中浜小学校を訪問した。そこで見た津波被害と比較してみても共通点は多かった。校舎内や周辺は津波被害の恐ろしさと悲惨さを再認識させた。

現在、東日本大震災によって太平洋沿岸500kmにも及ぶ広範囲が甚大な被害を受けた、その惨状を被災地では実情や教訓を伝えるための施設が多く整備されている。

一般社団法人3.11 伝承ロード推進機構 (2019年8月設立) によると、2024年4月時点で67施設に及んでいる。

人命の尊さと、防災・減災そして避難時の迅速な判断力の重要性を知り、日常の不注意と無関心への警鐘を鳴らしている施設といえる。

1月1日の令和6年能登半島地震などの大地震は国内外で頻発しており、甚大な被害をもたらしていることへの関心を高めるための一助としてもらいたい施設の役割を担ってもらいたい。

改めて震災遺構を訪問し、日常の備えや被災時の行動の仕方を学ぶために年に一度は訪問したい。

学習施設としての重要性和、日々生活する中で、避難訓練だけではなく、日本が被った自然災害がもたらす影響を感じ、実践するための気づきの場として、児童生徒を中心に、各界各層の皆さんに訪れて頂き、肌で感じていただき、防災減災を考える契機として頂きたいと思う。

④その他 (施設内には立ち入ることが出来なかったため敷地外から説明を受ける)

・福島国際研究教育機構 F-REI (エフレイ) 施設 (建設用地視察)

・福島ロボットテストフィールド浪江滑走路 (外観のみ視察)

設置者: 福島県

指定管理者: 公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構

福島県南相馬市原町区萱浜字慎赤沼 83 番

Tel 0244-25-2473

・水素ステーション (外観のみ視察)

世界一の水素製造研究施設というが、内に入れないため外観を見ながら案内人の説明を聞いた。

採算は取れておらず、研究施設のため水素を民間に供給することは出来ないのも、何のメリットもない残念な施設で、震災後の遺物施設だとの評価をされていた。近隣で水素は利用されているものの、ごくわずかであり、あまり価値はないと評されている。

このように、地元では不必要だと思われる施設が多く存在する。そのどれもが、元の住民を地元に戻す一助ともならないものばかりで、明るいニュースはひとつもないとのことである。



政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	令和 7 年 1 月 22 日
項 目	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	支払先及び購入品名、購入数、購入者などを記入 1月25日 一般財団法人日本青年館・日本青年団協議会共同主催研修会 久保田満宏
金 額	金 24,710円
支 出 内 訳	内訳) 別紙の通り
領 収 書 感熱紙の領収証 はコピーしてか ら貼付	

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

自由民主党議員会「響」

氏 名 久保田 満 宏



承 認 印	
会 長	経理責任者

①調査研究費

②研修費

⑤要請・陳情活動費

⑥会議費

政務活動費旅費計算書

会派名 自由民主党議員会「響」

金額 24,710円

(1人あたり 24,710円)

用 務	一般財団法人日本青年館・日本青年館共同主催研修会参加（東洋大学長 矢口悦子先生講演）					
旅 行 先	日本青年館					
旅 行 期 間	令和7年1月25日(土)～令和7年1月26日(日) (1泊2日) /名					
種 別	【自】区 間【至】	乗車料金	急行料金	特別車料金	合 計	
鉄 道 賃	黒部宇奈月温泉 東京(往復)	円	円	円	24,160円	
		円	円	円	円	
		円	円	円	円	
		円	円	手数料1名 円	550円	
				合 計→	24,710円	
航 空 賃		円	円	円	円	
		円	円	円	円	
車 賃	【自】区 間【至】	借上料金	燃料費	高速料金	合 計	
		円	円	円	円	
宿 泊 料	北陸新幹線の最終便に間に合わないため宿泊するが、翌日は日程が無い ため計上しない					0円
そ の 他 (駐車料金等)						円
備 考						円
合 計	24,710円					

旅行議員氏名 久保田 満 宏

承認印	
会 長	経理責任者
	

領收印
07.1.22
謝崇哲全函

令和6年11月16日

富山県魚津市議会議員
自由民主党議員会「響」会長 久保田 満宏 様

一般財団法人日本青年館
常務理事 佛 木 完
【公印略】

日本青年団協議会
会 長 中 園 謙 二
【公印略】

日本青年館・日本青年団協議会共同主催研修会の開催について（ご案内）

貴台におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、日本青年館及び日本青年団協議会が研修会等で講師・助言者として永年お世話になっている、矢口悦子先生が東洋大学学長に就任され、先生の今日までの経験をふまえ、下記の通り二部構成にて共同主催による研修会を開催する運びとなりました。

貴台におかれましては、公私共にご多忙の時期とは存じますが、是非とも研修会に参画して頂きたく、書面にて失礼とは存じますがご案内申し上げます。

記

研修名：日本青年館・日本青年団協議会共同主催研修会

目 的：平成29年7月に現在の3代目日本青年館が完成。そして、令和4年11月日本青年館財団設立100周年・日本青年団協議会結成70周年を迎えた。過去から、社会教育の殿堂と呼ばれてきた日本青年館では、青少年教育の要として、さまざまな研修会や研究集会が開催され、あらゆる分野で活躍する人物を輩出してきた。

しかし、近年は家庭環境や地域コミュニティの変化にともない、地域教育力の低下が著しい。学校教育にも与える影響は大きく、青少年の育成事業にも難題が山積している。

このような状況を打破するには、日本の各地域の「社会教育」をより一層盛り上げ復活させることが解決に至らしめると認識し、新たな活動を展開し地域活性化の一旦を担うための契機となる研修とする。

期 日：令和7年1月25日（土）

講師：東洋大学学長 矢口 悦子 先生

1部 14:00～16:00 「他者のために自己を磨く」

2部 18:00～20:00 「世紀を超えて青年を育む」

会 場：日本青年館

参加費：1部と2部のどちらか参加15,000円 1部と2部参加30,000円

※但し、日本青年館年会費納入者及び日本青年団協議会歴代役員は無料とする

魚津市議会 自由民主党議員会「響」 講演会・研修会参加日程（報告）

一般財団法人日本青年館・日本青年団協議会共同主催研修会
 東洋大学学長（文学部教授：博士（人文科学）） 矢口悦子（やぐち えつこ） 講演による研修会Ⅱ部構成

月日（曜）	内 容	宿泊先
令和7年 1月25日 （土）	09：20 自宅発 ⇒ 黒部宇奈月温泉駅 （はくたか558号） 09：40着/09：53発 12：25着（5分遅れ） ⇒ 東京駅 12：55 日本青年館着（昼食） 14：00～16：15 （夕食） 18：00～21：00 ⇒ 東洋大学学長 矢口悦子氏講演Ⅰ ⇒ 東洋大学学長 矢口悦子氏講演Ⅱ	日本青年館ホテル 新宿区霞ヶ丘4-1 03-3401-0101 ※新幹線最終に間に 合わないため宿泊 14,300円
1月26日 （日）	08：30発 日本青年館 ⇒ 東京駅 09：10着/09：32発（乗車変更） ⇒ 黒部宇奈月温泉駅 11：51着/11：57発 12：15 自宅着 ⇒	 東洋大学 文学部教授 前主：人文科学 矢口悦子 〒112-8606 東京都文京区白田5-28-20 Phone: 03-3915-7211 Fax: 03-3913-7248 E-mail: yaguchi-kei@toyo.jp URL: https://www.toyo.ac.jp

・久保田 満 宏（くぼた みつひろ） 男性 64歳 090-1313-1044（会派会長）





令和7年1月27日

自由民主党議員会「響」 久保田 満 宏

一般財団法人日本青年館・日本青年団協議会共同主催研修会（報告書）

1月25日（土）

13:00～13:45 受付（日本青年館5階事務所）

14:00 開会式（日本青年館5階会議室）

14:10～14:30 参加者自己紹介

参加者名：松浦 利明（岩手）：加藤 義弘（宮城）：齋藤 緑（宮城）：佐々木 広美（秋田）
近野 幸恵（山形）：菅野 好光（福島）：佐々木 洋子（栃木）：斉藤 千春（群馬）
久保田 満宏（富山）：水上 智子（石川）：中谷 和彦（岐阜）
新川 豊実（京都）：新川 和美（京都）：中川 知香（滋賀）

※一般財団法人日本青年館スタッフ：佛木 完（常務理事）：坂野 直子（公益事業部事業課）

杉浦 協子（総務部会計課）：小川 里津子（公益事業部事業課）

14:30～16:15 研修1：講演 矢口 悦子（東洋大学学長：文学部教授：博士（人文科学））

「他者のために自己を磨く」

【考 察】

学生は31,000人で107部署ある。代表としての役割は大変であるが、やりがいがあり光栄に思っている。

学生時代（1978年～）から係ってきた日本青年団協議会や日本青年館が開催してきた研修会への参加や助言者・講演の経験が、今でも活かしていることが私の財産であると語る。

特に、青年問題研究集会や活動家研修会、女性活動家研修会により、異世代との意見交換を体験したことにより、他者を認め、課題を共に探り解決していこうとする取り組み。すなわち「共同学習」があったからこそ自己形成の確立につながったと話す。このことを経験していなければ今の職にはなかったと確信しているとも話す。

「共同学習」を体験することは、現在の日本では得難くなった。家庭環境・学校教育のあり方の変化・社会環境の激変などの多くの要因が挙げられるが、「本日参加している皆さんが年老いても中心となって、地域変革と日本の社会を再構築していって欲しい」との激励にも似た言葉を頂いた。

すなわち、社会教育による地域教育力の再構築をしなければ、日本の進む方向がより一層不明確で不安定になり、個々の歩むべき方向性すら判断できなくなると危惧していらっしゃる。「ひきこもり・不登校等の要因は多種多様であるのに、ひと括りで解決に導くのは理不尽であり、荒唐無稽なことである。その解決の糸口は、共同学習を長年にわたって経験してきた、あなた方の心身に知らないうちに染み付いているはずであり、日本のために活かして欲しい」とも激励を受けた。

参加者それぞれが歩む道は違うが、今後も「共同学習を体験し、学び、他人に学び尊重し、共同学習を推進する」ことを忘れずに、あらゆることに積極的に邁進して行きたいと感じた。

16:15～16:30 宿泊手続き及び精算

16:40～17:10 日本青年館周辺の課題 ミニ講義：一般財団法人日本青年館常務理事 佛木 完
「神宮外苑の再整備計画の問題点と課題」※日本青年館9階から周辺を眺め、資料に基づき説明

【考 察】

近年の話題となっている、神宮外苑の再整備計画中の樹木伐採（神宮の杜）であるが、約900本の伐採を実施していた計画は、反対運動の影響を受け約600本の伐採という計画に変更された。これを受け小池知事は書類にサインした。伐採の数は約300本減であるが、3メートル以下の樹木は数に入っておらず、不安は残っているという。

最高の関心ごとであった、絵画館前の銀杏並木はそのまま残されるということで一安心といったところであろう。

再開発については、現在は神宮第2球場が取り壊され、秩父宮ラグビー場移転に向け工事が進んでいる。秩父宮ラグビー場の移転後は、現神宮球場が元秩父宮ラグビー場跡に宿泊施設をも完備させ移転する。また、周辺は外苑前の現伊藤忠商事本社ビルが180メートルの高層ビルに、その隣にも同様の高層ビルが建設されるという。その他の商業施設は其々70メートル超のビルを建設するというのがいかななものか。神宮内苑だけでは長年赤字で、外苑にある施設で増収しペイするしかないという。日本青年館は、某財団に年間約7000万円を支払っているが、宿泊施設付きの神宮球場が完成すれば日本青年館ホテルの経営も厳しくなり、減収は必至であり、社会教育の殿堂の今後が心配である。

17:10~17:30 日本青年館の資料室からの学び ミニ講義：一般財団法人日本青年館公益事業部 坂野直子
「戦前からの収蔵資料から歴史を読み解く」※日本青年館5階資料室にて

【考 察】

戦前からの資料に驚愕。

特筆すべきは、いわさきちひろの母が青年館に勤務していたことから、近年に従軍兵の慰問の郵便（軍事郵便）の挿絵を、いわさきちひろが描いたものとして原本保存されていた。

一昨年、親族から問い合わせが受け公開した。いわさきちひろが描いたものに間違いのないとの太鼓判をもらったそうである。なんとも貴重なるものを保存している日本青年館の存在意義に改めて感銘し、誇りに思った。ただし、経緯を考慮したのか、いわさきちひろ記念館での展示は申し出られなかったそうである。ご親族の心中お察し申し上げる。

戦前の日本青年館や日本の女性・青年組織の活動及び当時の日本の記帳映像（学徒出陣）などが重要かつ貴重な資料として残されていることに感謝である。

近年はNHKなどへ、収蔵しているフィルムや動画などの貸し出しなどが多く、希少性は高く重宝されていることは感慨深い。

今後も皆様に、収蔵資料を活用したものが活用された報道などがあれば、案内をして行きたいとのことであった。

ただ、最近は資料室も手狭になってきていることから、佛木常務理事にクラウドファンディングを提案した。

17:45~18:00 2部のみ参加受講者受付（日本青年館5階事務所）

18:00~21:00 研修2：講演 矢口悦子（東洋大学学長：文学部教授：博士（人文科学））

「世紀を超えて青年を育む」

【考 察】

「日本青年館・日本青年団協議会を通じて、成長させて頂いたといっても過言ではない」とおっしゃる。

世代を超え、国を超えて脈々と受け継がれてきた精神は、今や世界にも轟いている。

とりわけ、平和運動については、政府間が国交正常化前の国交無き時代から展開され継続されている。

このことは日本にとっても大変有益なこととなっている。

世界青年連盟、アジア青年協会などと古くから関係を構築させた当時の日本青年の精神に感謝したい。

「平和構築は、国交のない国の青年達と交流することが肝要であり、世界平和につながる」と掲げ、様々な国や青年組織と交流を続けてきている。そこには、政治・国情・宗教・人種・思想を超えた崇高な交流理念がある。

とりわけ、国交正常化前（1956年）中華人民共和国の現中華全国青年連合会との交流や、朝鮮民主主義人民共和国の元金日成朝鮮社会主義青年同盟やロシアのコムソモールとの交流や、国内外への平和活動や運動への参加やアピール、ヒロシマ・ナガサキからの訴えや語り継ぎ学習は、世界青年学生祭典に派遣するなどを実施することにより、世界各国の青年達も認め支援をしてくれている。ノーモアヒロシマ・ノーモアナガサキである。

このような精神で永く交流し、民間としての役割を果たすべく『政府が出来ないことを補完している』ことは重要で貴重であり、今後も継続していくことが必要不可欠である。

崇高な理念を、全世界の人々に啓発し推進していくことが求められている。

1月26日（日）

08:30 日本青年館発⇒東京駅（09:32 発はくたか557号）⇒黒部宇奈月温泉駅（11:51 着）⇒自宅



政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	令和 7 年 月 日 2025. 2. 19
項 目	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	支払先及び購入品名、購入数、購入者などを記入 「これでいいのか図書館 会計年度任用職員の継続雇用を求める院内集会」実行委員会主催の 会議出席（衆議院第1議員会館大会議室）旅費1名分を旅行企画へ支出（久保田満宏）
金 額	20,050円
支 出 内 訳	内訳） 領収書に記載の通り
領 収 書 感熱紙の領収証 はコピーしてから貼付	

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

自由民主党議員会「響」

氏 名 久保田 満 宏



承認印	
会 長	経理責任者

①調査研究費

②研修費

⑤要請・陳情活動費

⑥会議費



政務活動費旅費計算書

会派名 自由民主党議員会「響」

金額 20,050円

(1人あたり 20,050円)

用 務	「これでいいのか図書館 会計年度任用職員の継続雇用を求める院内集会」実行委員会主催の会議出席					
旅 行 先	衆議院第1議員会館大会議室					
旅 行 期 間	令和7年2月19日(水)~令和7年 月 日 () (0泊1日) 1名					
種 別	【自】区 間【至】		乗車料金	急行料金	特別車料金	合 計
鉄 道 賃	黒部宇奈月温泉	東京(往復)	円	円	円	19,500円
			円	円	円	円
			円	円	円	円
			円	円	手数料1名 円	550円
					合 計⇒	20,050円
航 空 賃			円	円	円	円
			円	円	円	円
車 賃	【自】区 間【至】		借上料金	燃料費	高速料金	合 計
			円	円	円	円
宿 泊 料						0円
そ の 他 (駐車料金等)						円
備 考						円
合 計						20,050円

旅行議員氏名 久保田 満 宏

承認印	
会 長	経理責任者

21272

2025年1月21日

1 名



代表取締役 桶屋 諭喜

TEL(0765)24-3900 FAX(0765)24-5040

登録番号:T2230001007250

¥20,050--

(1,822)

[illegible]

TRAVEL PLANNING SYSTEM CO.,LTD.

令和 7 年 1 月 22 日

次回も是非、当社に御用命下さいますようお願い申し上げます。
この度のお支払いまことにありがとうございます。

收入印紙

Y

20050-

上記の金額、正に領収いたしました。

但し

として



機旅行企画

代表取締役社長 桶屋 

富山県魚津市釈迦堂1丁目16-12(〒937-0067)
魚津駅前ビル1F
TEL(0765)24-3900 FAX(0765)24-5040
登録番号: T2230001007250

領收 No 16087

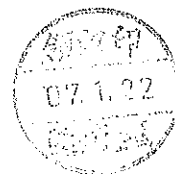
集金者印 発行者印

名宛人及び金額を訂正したものは無効です。

差引今回御請求額

¥20.050

◎富山銀行 魚津支店 (普)0361276



魚津市議会/自由民主党議員会「響」：研修会参加日程（報告）

主催：「これでいいのか図書館 ～会計年度任用職員の継続雇用を求める院内集会～」実行委員会
 構成団体：図書館問題研究会—学校図書館問題研究会—官製ワーキンググループ研究会—公務非正規女性全国ネットワーク
 図書館友の会全国連絡会—学校図書館を考える全国連絡会
 協力：（公社）日本図書館協会
 後援：（公社）全国学校図書館協議会—親子読書地域文庫全国連絡会—文字・活字文化推進機構—学校図書館整備推進会議

月日（曜）	内 容	宿泊先
令和7年 2月19日 （水）	09：25 市役所発 ⇒ 黒部宇奈月温泉駅（はくたか558号） 09：40着/09：53発（遅延9：59発）12：20（12：30着）12：50 ⇒ 東京駅着 ⇒ 衆議院第1議員会館着（昼食） 14：00～17：00/17：15発 17：30着/18：04発 20：40着/20：50発 21：10 （遅延18：17発）（21：02着）（21：35） ⇒ 研修会（衆議院第1議員会館大会議室）⇒ 東京駅 ⇒ 黒部宇奈月温泉駅 ⇒ 自宅着 （はくたか575号）	
月 日 （ ）		

・久保田 満 宏（くぼた みつひろ）男性 64歳 090-1313-1044（会派会長）



これでいいのか図書館 ～会計年度任用職員の継続雇用を求める院内会議～ **報告**

会場：衆議院第1議員会館 B1 大会議室
目的：公共図書館の4割、学校図書館では9割が会計年度任用職員であるが、この実態に潜む課題や問題点及び解決策を探るために参加した。
主催：「これでいいのか図書館～会計年度任用職員の継続雇用を求める院内会議～」実行委員会
構成団体：図書館問題研究会、学校図書館問題研究会、官製ワーキングプア研究会
公務非正規女性全国ネットワーク、図書館友の会全国連絡会
学校図書館を考える全国連絡会
協力：(公社) 日本図書館協会
後援：(公社) 全国学校図書館協議会、親子読書地域文庫全国連絡会、文字・活字文化推進機構
学校図書館整備推進会議
日程：プログラム・内容の詳細 (You Tube ライブ配信あり)
配布資料：⑦プログラム
④令和7年1月28日 文部科学大臣宛提出要望書写し
⑤ " 総務大臣宛提出要望書写し
⑥令和7年2月2日 全国町村会長宛提出要望書写し

13:30～ 受付
14:00 開会挨拶 (実行委員長：巽 照子)
14:10～14:12 国会議員挨拶 ①阿部 祐美子 (衆議院議員・立憲民主党)
②伊藤 岳 (参議員議員・共産党)
③阿部 知子 (衆議院議員・立憲民主党)
14:12～14:45 日本図書館協会からの報告 高橋 恵美子
『会計年度任用職員継続のお願いと学校図書館職員調査(個人向け)』
14:45～14:55 国会議員挨拶 ④笠 浩史 (衆議院議員・立憲民主党)
⑤松島 みどり (衆議院議員・自由民主党)
⑥野間 健 (衆議院議員・立憲民主党)
⑦福島 みずほ (参議院議員・立憲、社民、無所属)
14:55～15:43 当事者(会計年度任用職員・非正規)からの報告
・船津 まゆみ (練馬区立図書館専門員労働組合)
・公共図書館司書(ZOOM)
・複数校兼務の学校司書(ZOOM)
14:43～16:02 総務省・文部科学省の挨拶と1月28日提出の要望書への回答
・片山 良太 (総務省自治行政局 公務員部 公務員課)
・毛利 るみこ (文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課
図書館・学校図書館推進室 図書館振興係)
16:02～16:07 休憩
16:07～16:10 久保田 満宏の挨拶(急に指名される)
16:10～ 講演：廣森 直子(大阪信愛学院大学 教育学部准教授)
『司書職が専門性を発揮できる労働環境』
我慢するか、やめるしか選択肢が無い
17:10 新幹線の時間があり途中退室
(※ 帰宅後に You Tube で確認)

・国会議員挨拶 ⑧川田 隆平 (参議院議員・立憲民主党)
・講演に対する質疑応答
・閉会

【考 察】

いまや、全国各地で書店の姿が減っている。そのような中で、本や雑誌と出会い確実な情報を得ることが出来る公共図書館や学校図書館の役割は、益々重要となっている。

公共図書館職員や学校図書館職員の7割以上が非正規雇用職員ということである。

自治体の会計年度任用職員民間委託職員や指定管理者制度等の職員は、現場で利用者や児童・生徒に向き合い研鑽を積み、専門的に仕事に従事しており、公共図書館や学校図書館は非正規雇用職員によって支えられ成り立っていると言っても過言ではない。しかし、有期雇用の不安や独立して生計をたてることが出来ない低賃金の実態。正規雇用職員との大きな較差のある諸手当や休暇や昇給制度などの多くの問題があるという。このような環境の中にあるにもかかわらず、熱い情熱と強い責任感で非正規雇用職員は働いており、職責をまっとうするために、耐えながら職務に従事する姿勢に頭が下がる。

また、主たる生計保持者ではないことを前提にした雇用条件が弊害となっており、必然的に非正規雇用職員の多数が女性である。自治体は間接的に、「女性差別的状況をつくりだしているとは言えないか？」と感じるのは、私だけではなかったと思う。

全国の状況と魚津市との状況は違うが、全国の図書館利用者や児童・生徒達の支えとなっている、非正規雇用職員に力を与えたい。

現状は、「救うではなく、巢食われる」になっていると考えられる。

働き方改革といわれていることが空転しており、実態はパワハラ、モラハラ盛りだくさんとなっていることは許しがたい。

非正規雇用職員の処遇改善や差別の撤廃を求めるべく、全国の地方議会、団体や個人が連携強化と、改善に向けての運動の拡充・強化が必要であろう。

次回参加する時は、関係団体や他の議員にも参加を勧め一人でも多くの参加者と共有したいと思える集会でありました。